

# 切通シ沢

七五

一九八二年一〇月一〇日

稜線ぞいの林道を少し歩いて、一

三時、下降開始。少し下るとナメが出てくる。二ツ小屋沢と違って、少しは期待できそうだ。

まず、最初の二ツをクライミングダウン。そのあとに五ツクラスのダウ。いずれも簡単に下降でき、沢としてはそんなに印象深いものではないが、遡行してきた二ツ小屋沢があまりにも平凡であっただけに、一応気持だけはなぐさめられた。

一五時〇五分、二ツ小屋沢出合。それから一時

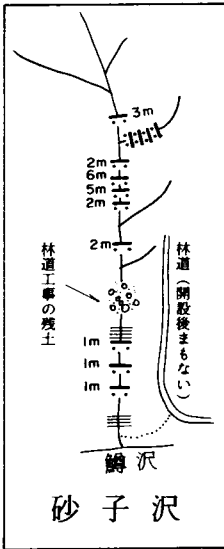
間程で今朝方出発した不動尊に着く。

# 砂子沢

七五

一九八五年一〇月五日

鱒沢林道ゲート手前の広場に車をデポし、林道を歩くこと三〇分で砂



おみやげにアケビとヤマブドウをいっぱい持って。(記)

(記)

「タイム」 下降開始(二:三〇〇)↓

二ツ小屋沢出合(二:五〇五)↓

不動尊(二:六〇〇)

子沢出合である。なお林道ゲートの所は、農道改良工事が進められており、林道上にかなりの落石が生じていた。

さて、遡行開始である。沢幅一、二ツと、開始早々ヤブとの戦いである。滝は一ツ程度のもので単発であり、半分あきらめ気分で進んでゆくと、突然目の前がひらけて、大小の

岩が沢を埋めつくしていた。なんのことはない、林道工事の残土を沢に捨てたものである。

余談であるが、山の中とはいえ、同じ林業技術者として残念である。少し離れた所には、残土捨場としても適地があったと思えるのだが。

さらに先に進むこと三〇分、二段七び、六びと、この沢最大の滝が出現した。左岸を木の枝を使って登る。さらにその上に二びの滝が続いた。

この先、沢の傾斜勾配も急になり、水の流れも細くなってきた。

左岸より、水量では本流より多い

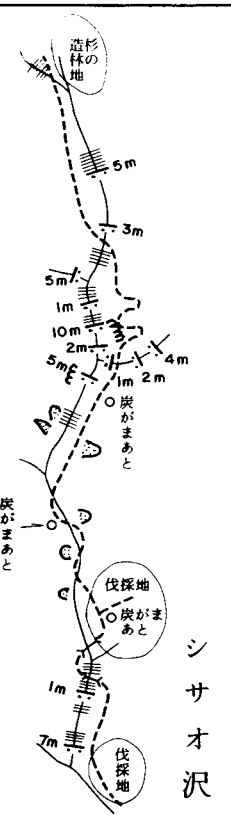
と思われる支沢が数段もの滝を連ねて落ちている。どちらが本流なのか、地図で現在位置を確認し、こちらが本流と確認して先に進む。途中三びの滝が出てきたが、水も涸れ源頭部

## シサオ沢

一九八三年六月一日

増沢バス停から鱒沢までの林道を歩いてゆく。この林道は現在盛んに

延長工事が行われている。



となったあたりで遡行終了として引き返す。(記：)

「タイム」 林道ゲート(二三:三〇)

↓砂子沢出合(二四:〇〇)↓遡

行終了(二四:五〇)

一三時一五分、砂子沢出合を通過。沢はまだ平凡なままなので、左岸につけられた踏跡を利用してスピードアップを図る。一三時二〇分、左下の流れに滝がかかっているのがみえてきた。これを見逃す手はあるまいと、下に降りてわらじをつける。七び程の斜瀑である。ホールドも